

米債務上限問題と米金融市場の行方



シニア・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① 米債務上限を巡る交渉は難航中

米債務上限の引き上げを巡る与野党の対立が続くなかでも米国株は堅調に推移するなど、米金融市場は比較的落ち着いた動きとなっています。

イエレン米財務長官は、米財務省が6月1日にも資金を使い切る恐れがあるとの見方を示しており、米債務上限の引き上げに向けて残された時間は短いといえます。米国債のデフォルト（債務不履行）リスクを警戒し、米1ヵ月国債利回りは直近で大きく上昇しています（右上図）。また、米国債市場でデフォルトリスクを織り込んで取引されるCDS（クレジット・デフォルト・スワップ）の保証料率がリーマン・ショック以来の水準にまで上昇するなど、米国債のデフォルトに備える動きも一部で見られます。

ポイント② 大統領選を翌年に控え妥結期待も

投資家の不安心理を表す米VIXは17.12（5月15日時点）と、楽観・悲観の分かれ目である20を下回っており、米債務上限問題に対する米国株市場の警戒は低いといえます。ただ、同問題が難航の未決着した後、格付会社による米国債の格下げが行なわれた2011年には、米国株は大きく下落し（右下図）、安全資産である米国債が買われるなどリスクオフの流れとなりました。

16日にバイデン米大統領と米下院議長の再会談が予定されていますが、交渉は難航するとみられています。ただ、2011年の市場の混乱は一時的で、後で振り返れば、そこが米国株のエントリーポイントとなりました（同図）。交渉難航が続けば、リスクオフの流れが一時的に強まる場面もありそうですが、米大統領選を来年に控えるなかで、米債務上限の交渉が何等かの形で妥結する可能性が現時点では高いといえるのではないのでしょうか。

米国債利回り（1ヵ月と10年）



期間：2023年1月2日～2023年5月15日、日次
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

S&P500種株価指数と米VIX



期間：2011年1月3日～2023年5月15日、日次
・米VIX（ボラティリティ・インデックス）とは米シカゴ・オプション取引所が、S&P500種株価指数を対象とするオプション取引の変動率を元に算出、公表している指数。一般的に同指数の数値が高いほど、投資家の先行き不透明感が強いとされる。（別名：恐怖指数）
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。